

NPO法人街の家族 設立趣旨書

活動を始めた動機・背景と活動の経過

「東日本大震災が発端で、“いざ！”の時に必要な互助の繋がりへ自然な姿カタチで結びつく三世代が関わる“生活の場の交流拠点”が不可欠」の私達の信念、空き家オーナーさんの「愛するまちで使える間は出来る限り空き家をまちに活かしたい」の想い、それまで繋がりになかった2者を繋ぎ、伴走くださった方々、三者の協同で2012.6から現在まで任意団体として次のような活動を行ってきました。

1. 活動の経過と内容について

①活動の地域社会への貢献

- ・未就学児子育て、中年、高齢者世代が夫々違う生活圏で暮らす地域で、これらの世代が自然に触れ合う場となり、協力活動が生まれ広がる場となっている。
- ・複数（横浜市青葉区、町田市、川崎市）の行政域に跨る地域一帯で、子育て世代の支え合いが共通的なニーズとして、＜子育てのしやすいまちを住民自身で考えながら、子どもの成長と共に住みよいまちも育つ＞の支え合い活動と考えが重なり、シニアから子育て世代の三世代が関わる交流活動とり、地域に広がり始めている。

②活動への取組

- ・ヨコハマ市民まち普請事業への提案参加の機会を活用し、事業計画と日常の活動をスピーディーに立ち上げました。（2012-2013）
- ・空き家の活動拠点としての整備では、民間の多数の助成金を活用し活動を支えるバリアフリーやオープンキッチン等の整備をおこなってきました。（2014-2017）
- ・転入の子育て世代と独居のシニア世代の目立つ地域一帯で、「子育てしやすいまちにしていこう！」、「子どもとの触れ合いでシニアも元気に！」の息長い声掛けと活動を続け、三世代交流の活動の輪の広がりに結び付いています。

③活動の特徴と工夫

- ・子育ての地域見守り合いを担うママさん世代の繋がりを活動のコアに据えている。
- ・こどもの成長とともにママ世代の当事者は変わるが、見守り合いの繋がりで次世代のママへと活動が繋がり、活動が継続し広がっている。そして、先輩ママの小学生世代へもと、子どもの成長とともに活動の輪の広がりに結びついている。
- ・高齢者世代がこれらの活動を日常的に傍から支え、一緒に企画・活動づくりに参加することで夫々の世代の力が合わさり、社会的参加意識が生まれる活動と交流の場となっている。

2. 活動の継続とNPOの設立

まちづくりに活用できる空き家の活動拠点としての利用の継続性の制約は大きな課題です。一方、空き家が使えなくなることで、空き家拠点での交流が日常生活の一部となっている利用者には日常がなくなる事は大きな問題です。地域での活動の継続への工夫と対応が必要です。

今後も生活の場のまちづくり活動(①地域での子育て見守り合い ②生活の場のシニアの居場所 ③三世代交流(①, ②の協調))を私達自身の自分事と受け止め、活動を計画し、実施し、参加を促し、ホームページやSNS, まちだより等で地域に発信し、普段の生活の場でのまちづくりに取り組んでいきます。

この度、以上の活動を継続するために社会的認知度が高く、行政、公共団体、民間補助機関等の支援、協力が得やすいNPO法人化がふさわしいと考え、法人格の取得を申請するものです。NPO化を契機に、持続性ある運営と組織基盤を固め、地域、行政、関係機関と協力しながら三世代交流のまちづくり事業を進め、子育て世代も、高齢者も、生活のしやすい地域社会の実現のために貢献します。